

こどもの救命処置について

三重大学医学部附属病院麻酔科
岡林和弘

Basic Life Support for Children

Kazuhiro Okabayashi

Department of Anesthesiology, Mie University School of Medicine, Mie, Japan

はじめに

呼吸が止まると数分で心臓が止まり、心臓が止まると、3～4分で脳に障害を残す可能性が生じます。呼吸や心臓が止まってしまうことを心肺停止と言いますが、突然の心肺停止が起こった場合は、最初の2～3分間にとられる行動が傷病者の救命に対し大きな影響を及ぼします。

そばに居合わせた人が救命処置を行うことにより傷病者の生存につながるということが知られています。市民の方による救命処置は大変重要です。しかし市民の方が救命処置を行うためには勇気と知識が必要です。

こどもの救命の連鎖

こどもの救命処置は、こどもが緊急事態に陥った後に無事に生き延びられるための地域全体の“救命の連鎖”の一部です。救命の連鎖とは

1. 心肺停止に対する予防や教育
2. そばに居合わせた人による救命処置
3. 救急隊への迅速な通報
4. 医療機関での救命処置などを包括した概念です。

心肺停止の予防

まず大事なことはこどもの心肺停止の予防です。こどもの心肺停止の原因としては外傷が高い割合を占めます。交通事故、水の事故、火事/やけど、窒息などがあります。

チャイルドシートや自転車用ヘルメットの重要性につき理解し着用することなどが重要です。

救命処置と通報

救命処置と聞くと心臓マッサージや人工呼吸を思い浮かべると思いますが、それには手順があります。正しく理解して勇気を持って行ってください。

1. 意識の有無の確認

倒れているこどもを発見したら、こどもに優しく刺激を与え“大丈夫？”と大きな声で問いかける。意識がない場合は大声で助けを求め、近くに人がいたら119番通報してもらい、自分は心肺蘇生をします。

近くに人がいない場合、こどもが8歳未満のときは、まず1分間の心肺蘇生を行ないます。呼吸が原因で心臓が止まってしまうことが多いからです。それから119番通報します。

2. 気道確保

意識のない傷病者では舌による気道閉塞が最も多です。頭部を後屈し、あご先をもちあげることによって気道を確保します。(頭部後屈あご先挙上法)。

3．呼吸の有無の確認

“見て、聞いて、感じて“呼吸の有無を10秒以内にチェックします。すなわち胸の動きを見たり、鼻や口から呼吸の音が聞こえるか、頬を近づけてこどもの口から空気の動きが感じられるかで呼吸の有無を確認することができます。

4．人工呼吸

気道確保をしても呼吸をしないときは、口や鼻から息を吹き込みます(人工呼吸)。気道確保の姿勢のまま、幼児以上では鼻をつまんで口から口へ、乳児では口と鼻を自分の口で覆い息を吹き込みます。一回1～1.5秒で息を吹き込み、2回繰り返します。息を吹き込むことで胸が上がることを確認してください。

口の中に異物が見えた場合はこれを取り除きます。

5．循環のサインの確認

人工呼吸を2回したあと、咳をしたり体の動きがないか(循環のサイン)を短時間で観察します。脈の確認にはかなりの時間がかかるので触れる必要はありません。循環のサインがなければ、すぐに心臓マッサージを開始します。

6．心臓マッサージ

小児(1歳以上8歳未満)は片手の掌で、胸の中央のみぞおちより上を、胸の厚さの3分の1程度沈むまで圧迫します。速さは一秒に2回弱で一分間に約100回です。肘が曲がらないように注意します。人工呼吸1回と心臓マッサージ5回を交互に繰り返します。

乳児(1歳未満)は、胸の中央で乳首を結んだ線より指一本下のところを指二本で押します。胸の厚さの3分の1程度沈むまで圧迫します。速さは一秒に2回弱で一分間に100回以上です。お腹を押さないように注意します。

8歳以上の小児は成人と同様に両手で心臓マッサージをします。人工呼吸2回と心臓マッサージ15回を交互に繰り返します。

7．119番通報

救命処置を1分行った後に救急車を要請します。救急車が来るまで心肺蘇生を続けます。

皆様の善意による心肺蘇生が一人の命を救い、救命率の向上にも繋がります。